

音楽科学習指導略案

日 時 令和3年11月1日月曜日 5校時
 対 象 高等部 男子6人 女子6人 計12人
 場 所 音 楽 室
 指導者 長友(CT), 榎本(ST1), 今村(ST2)

1 題材名「いろいろな楽器を演奏しよう」

2 本時の学習(7/12)

(1) 全体目標

- ア 複数の音を聴き比べる活動を通して、曲のテーマ(優しい気持ち)に合った音色や道具を考えることができる。(思・判・表)
- イ 教師が演奏している動画やモデルを視聴する活動を通して、曲のテーマ(優しい気持ち)に合った奏法を考え、表現することができる。(思・判・表)

(2) 個人目標

旋律1グループ	A (1年)	ア キーボードの三つの音を聴き比べたり、友達の意見を聞いたりする活動を通して、曲のテーマに合った音色を選択することができる。 イ 教師が演奏している動画やモデルを見ながら、友達と楽器を鳴らす活動を通して、曲のテーマに合った演奏方法を選んだり、模倣したりすることができる。
	B (3年)	ア キーボードの三つの音を聴き比べる活動を通して、曲のテーマに合った音色を選択することができる。 イ 教師が演奏している動画やモデルを見ながら、気付いたことをワークシートにまとめる活動を通して、曲のテーマに合った奏法を教師に伝えたり、実際に曲の一部を演奏したりすることができる。
	C (3年)	ア キーボードの三つの音を聴き比べたり、感じたことについて友達と意見交換したりする活動を通して、曲のテーマに合った音色を選択することができる。 イ 動画を視聴したり、いろいろな奏法を試したりする活動を通して、曲のテーマに合った奏法を友達に伝えたり、楽器を使って表現したりすることができる。
旋律2グループ	D (1年)	ア 複数のマレットを使ってマリリンバの音を聴き比べる活動を通して、曲のテーマに合ったマレットを選択することができる。 イ 様々な奏法を試す活動を通して、曲のテーマに合った演奏方法を考え、友達に伝えたり、楽器を使って表現したりすることができる。
	E (1年)	ア 複数のマレットを使ってマリリンバの音を聴き比べたり、友達の意見を聞いたりする活動を通して、曲のテーマに合ったマレットを選択することができる。 イ 友達が考えた演奏方法を模倣する活動を通して、曲のテーマに合った演奏奏法を選び、曲の一部を演奏することができる。
	F (2年)	ア 教師と一緒に複数のマレットを使ってメタルホーンの音を聴き比べる活動を通して、曲のテーマに合うマレットを選択することができる。 イ 教師が演奏している動画やモデルを視聴したり、教師と一緒に楽器を鳴らしたりする活動を通して、曲のテーマに合った演奏方法を選んだり、教師の模倣をしたりすることができる。
	G (3年)	ア 複数のマレットを使って鉄琴の音を聴き比べる活動を通して、曲のテーマに合ったマレットを選ぶことができる。 イ 教師が演奏している動画を模倣する活動を通して、曲のテーマに合った奏法を選んだり、実際に曲の一部を演奏したりすることができる。
リズムグループ	H (1年)	ア 楽譜にウインドチャイムのチップを貼る活動を通して、曲の雰囲気を感じ取り、演奏したいタイミングを教師に伝えることができる。 イ 教師が演奏している動画やモデルを視聴したりする活動を通して、テーマに沿った演奏方法を選び、教師と一緒に模倣することができる。
	I (2年)	ア ブラシやスティックを使ったシンバルの音色を聴く活動を通して、友達と一緒に曲のテーマに合った道具を選ぶことができる。 イ 教師が演奏している動画を基に、教師や友達から奏法のポイントを聞いたり、見たりする活動を通して、テーマに合った演奏方法を知り、教師と一緒に模倣することができる。
	J (2年)	ア 二つのマレットを使って大太鼓の音を聴き比べる活動を通して、曲のテーマに合ったマレットを選ぶことができる。 イ 教師が演奏している動画を視聴したり、その奏法を試したりする活動を通して、曲のテーマに合った演奏方法を選び、演奏することができる。
	K (3年)	ア スティックやブラシを使ってスネアドラムの音を聴き比べる活動を通して、曲のテーマに合った道具を選び、理由を添えて説明することができる。 イ 教師が演奏している動画を視聴したり、様々な奏法を試したりする活動を通して、曲のテーマに合った演奏方法を考え、友達に伝えたり、楽器を使って表現したりすることができる。

(3) 本時で働かせる教科等の見方・考え方と想定する「深い学び」の姿

教科等の見方・考え方	「深い学び」の姿
見 方：音色 考 え 方：曲想を感じ取り、曲想に応じた演奏方法を考えること	③④ テーマと関連する音色や道具を選ぶこと ③④ テーマと関連する演奏方法を考えること

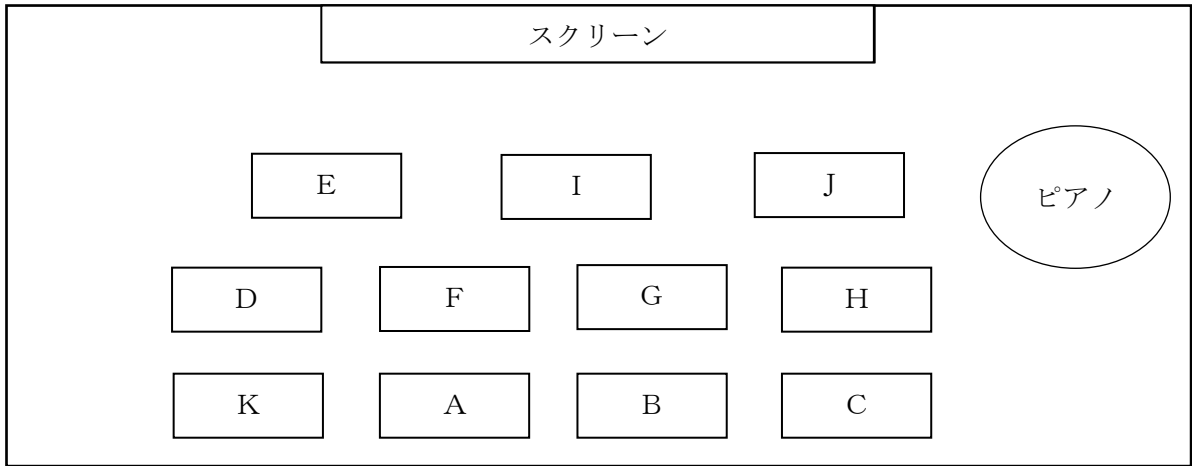
(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援の手立て ※番号は「深い学び」の姿との対応を示す。	資料・準備
導入 (10)	1 始めの挨拶をする。 2 めあてを考える。 (1) 前時までの学習内容を振り返る。 (2) 教師の演奏動画を視聴する。 (3) めあてを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">優しい気持ちで演奏するためには、どんな工夫をしたらよいだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 教材曲を聴いたり、曲のテーマ（優しい気持ち）を確認したりすることで、前時の学習を想記することができるようにする。 テーマに沿った演奏と、沿っていない演奏の二つの動画を視聴することで、どのように演奏したらよいか、イメージをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコン
展開 (35)	3 音色や演奏方法を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【旋律1グループ】 A, B, C (キーボード)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【旋律2グループ】 D, E (マリンバ) F (メタルホーン), G (鉄琴)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【リズムグループ】 H (ウインドチャイム) I (シンバル) J (大太鼓), K (スネアドラム)</div> (1) テーマに合った言葉を一つ選択する。 (2) 演奏する「マレット」やキーボードの「音色」を選ぶ。 (3) 演奏の方法を考える。 4 グループごとに考えた工夫を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 旋律1グループをCTが、旋律2グループをST1が、リズムグループをST2が指導する。 手順表を提示することで、グループのリーダーが中心となって工夫を考えることができるようにする。 グループやパート、楽器ごとにワークシートを準備することで、考えをまとめることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 「音色まとめ」のプリントを掲示し、その中から言葉を選ぶことができるようにする。 ③④ 複数のマレットやキーボードの音色を提示し、実際に音を聴き比べることで、テーマや選択した言葉に合ったマレットや音色を選ぶことができるようにする。 ③④ 教師が事前に撮影した動画をタブレット端末で視聴し、テーマに沿った演奏方法の動画を選択することができるようにする。 ③④ 動画を見る際のポイントを示すことで、ポイントに基づいて動画を見たり、模倣したりして、演奏の方法に気付くことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使って、考えた工夫を発表することができるようにする。 楽器を使って発表することで、演奏の工夫を表現することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順表 「音色まとめ」プリント ワークシート 楽器 マレット タブレット端末 楽器
終末 (5)	5 本時の学習を振り返る。 6 次時の学習について知る。 7 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを基に、生徒の学習の様子をまとめ、次時の学習に生かすことができるようにする。 	

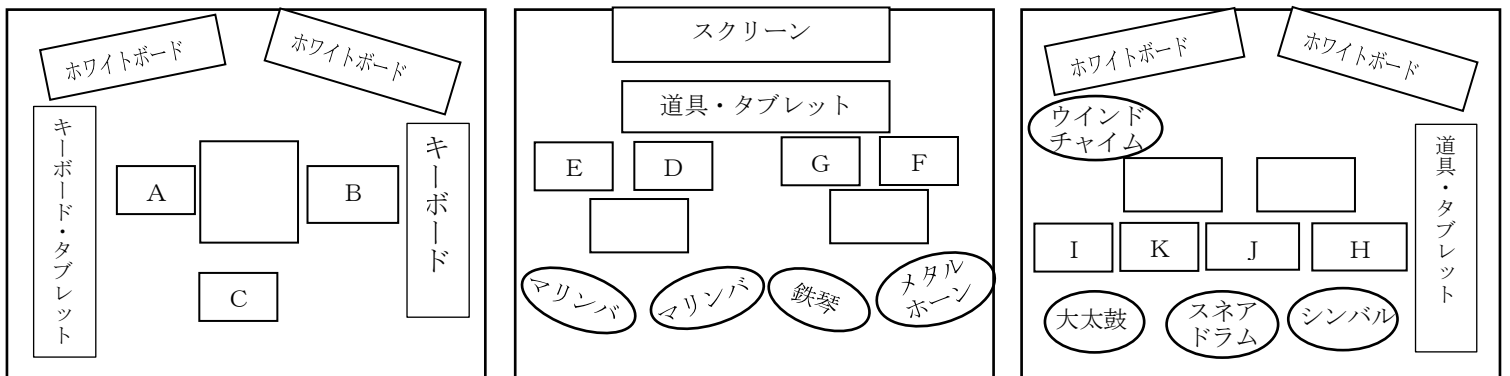
深い学びの姿

- ① 知識を相互に関連付けてより深く理解する。 ② 情報を精査して考えを形成する。
 ③ 問題を見いだして解決策を考える。 ④ 思いや考えを基に創造する。

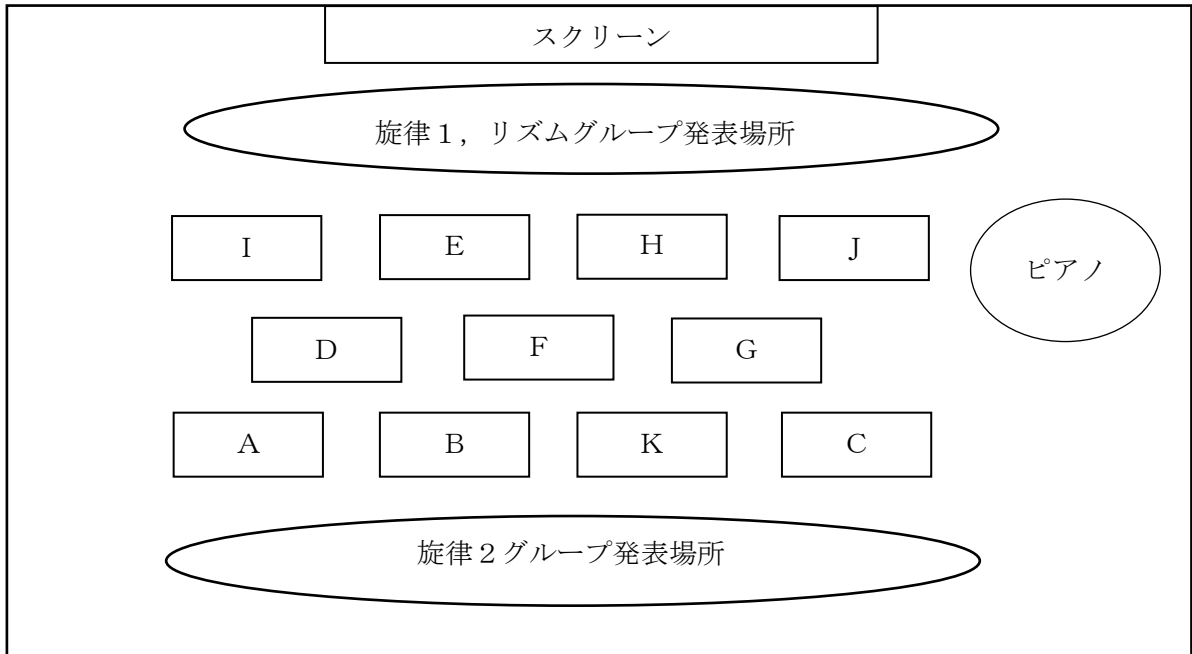
(5) 場の設定
 〈導入〉



〈展開〉



〈終末〉



(6) 教材・教具

手順表	「音色まとめ」プリント
<p>学習活動1 「音色」について考える</p> <p>① 「音色まとめ」のプリントからテーマに合う言葉を選ぶ。</p> <p>↓</p> <p>② 言葉に合った音を出すために、使う道具を決める。</p> <p>↓</p> <p>③ 言葉に合った音を出すポイントを考える。</p>	<p>「優しい気持ち」の【音色】まとめ</p> <p>明るい音は こんな音!</p> <ul style="list-style-type: none"> キラキラ やわらかい 楽しい 軽い 笑顔になる ていねいに 朝日がのぼるように 晴れの明るさ
<p>活動の流れを示したもの。これを手掛かりに、活動を進めることができるようにする。</p>	<p>一次の学習活動で、音色について生徒たちから出た意見を一枚にまとめたプリント。音色の工夫を考える際に使用する。</p>
ワークシート	楽譜
<p>グループや楽器ごとに、使用する道具や音色、演奏のポイントを記入するために使用する。</p>	<p>旋律1, 2グループが使用する。パートごとにピンクと黄色で色分けをすることで、担当を確認して演奏することができるようにする。</p>
リズムカード	演奏方法の動画
	<p>やさしいきもちの えんそうは どれかな? えんそうの ポイントを みつけよう。</p> <p>①てくび ②けんぱん ③おと</p> <p>に ちゅうもく しよう</p> <p>1ばん 2ばん 3ばん</p>
<p>リズムグループが使用する。楽器ごとにホワイトボードに担当のリズムを貼り、リズムを確認しながら演奏することができるようにする。</p>	<p>Keynote で作成している。教師が演奏した二つから三つの動画をタブレット端末で視聴し、演奏のポイントを考えることができるようにする。</p>

授業計画シート（主体的・対話的で深い学び）

学部	教科等名	学習集団	題材名	総時数（実施時期）	必要時数（望ましい時期）
高等部	音楽	白ごはん	いろいろな楽器を演奏しよう	12 時間(10～11)月	時間()月頃

題材の全体目標	
知・技	作詞者の思いや意図（曲のテーマ）と速度や音色、強弱などの要素との関連に気付いたり、創意工夫した表現方法で演奏したりすることができる。
思・判・表	作詞者の思いや意図（曲のテーマ）を踏まえて、速度や音色、強弱などの演奏方法の創意工夫をすることができる。
学向	自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えに共感したりしながら、音楽表現を生み出そうとすることができる。

実態目標		生徒名
知・技	「ふるさと」を聴き、速度、音色、強弱に注目して気付いたことをまとめる活動を通して、速度、音色、強弱との関係を考えたり、創意工夫した表現方法で演奏したりすることができる。	D, K, L
	「ふるさと」を聴き、イラストを手掛かりに、速度、音色、強弱についてまとめる活動を通して、速度、音色、強弱との関係を知ったり、友達と考えた表現方法を意識して演奏したりすることができる。	A, B, C, E, G, J
	「ふるさと」を聴き、イラストを手掛かりに、教師と一緒に速度、音色、強弱についてまとめる活動を通して、速度、音色、強弱との関係を知ったり、教師と一緒に演奏したりすることができる。	F, H, I

実態目標		生徒名
思・判・表	楽譜やタブレット端末の動画を手掛かりにグループで話し合い、奏法を試す活動を通して、曲のテーマ（優しい気持ち）を踏まえた速度や音色、強弱などの演奏方法の創意工夫をすることができる。	C, D, K, L
	楽譜やタブレット端末の動画を手掛かりにグループで話し合い、奏法を模倣する活動を通して、曲のテーマ（優しい気持ち）を踏まえた速度や音色、強弱などの演奏方法を考えたり、選択したりすることができる。	A, B, E, G, J
	楽譜やタブレット端末の動画を手掛かりにグループで話し合い、教師と一緒に奏法を模倣する活動を通して、曲のテーマ（優しい気持ち）を踏まえた速度や音色、強弱などの演奏方法を選択することができる。	F, H, I

本題材において働かせる「教科等の見方・考え方」	「深い学び」の姿
【音楽】 見方： 音楽を形づくっている要素（速度、音色、強弱） 考え方： 曲想を感じ取る 音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、思いや意図をもつ	① 知識を相互に関連付けてより深く理解する。② 情報を精査して考えを形成する。 ③ 問題を見いだして解決策を考える。④ 思いや考えを基に創造する。 ① 曲のテーマと音楽を形づくっている要素を関連させて、言葉やイラストで説明したり、自分の考えを伝えたりすること ① 楽譜やタブレット端末の動画を使用しながら楽器を演奏し、担当するフレーズや曲の構成を理解すること ② 音階表やリズムカード、音楽用語カードを基に、楽譜の階名やリズムを考えたり、強弱記号の意味を知ったりすること ③④ テーマと関連する音色や強弱、演奏方法を考え、表現すること

学習指導要領との対応（各教科等の内容） 記入例：【教科名】／内容・ <small>資質・能力</small> の三つの柱・（段階）	次	時数	学習活動	「深い学び」を実現するための工夫 ※ 番号は上記の深い学びの姿との対応を示す。	学習上の特性
高音1 【器楽】 (7) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。 <u>思考力・判断力・表現力</u> (4) 次の⑦及び⑧について理解すること。 ⑦ 曲想と音楽の構造との関わり ⑧ 多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり <u>知識</u> (9) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ⑦ 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能 ⑧ 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 ⑨ 各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能 <u>技能</u> 【共通事項】 (1) 1段階と2段階の「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。	一	2	1 曲のテーマと関連する要素を見付ける。 (1) 曲が生まれた背景を知る。 (2) 作者の思いや曲のテーマを知る。 (3) 速度、音色、強弱の項目とテーマの「優しい気持ち」と関連する部分を考える。 (4) 演奏する速度について考える。	① 前題材で使用した「速度」「音色」「強弱」についてまとめたカードや、「速い」「遅い」、「大きい」「小さい」などのイラストを提示することで、曲のテーマと関連付けて考えることができるようにする。 ・ 教師が♩=30, ♩=70, ♩=110の速さで演奏することで、曲のテーマに合った速さを選択することができるようにする。	・ 学びが断片的になりやすいが、学習の履歴が分かるものを提示することで、想起することができる。 ・ 自分の考えを言葉で説明することが難しいことがあるが、簡単な言葉やイラスト等の選択肢を用いることで、自分の意見に近い内容を選んで伝えることができる。
	二	6	2 演奏する楽器や担当パートを知る。 (1) 旋律、副旋律、リズムなどの教師の演奏を聴く。 (2) 使用する楽器、担当パートを知る。 (3) 楽譜に階名を書いたり、リズムを確認したりする。 3 楽譜や動画を基に練習する。 (1) 個人で練習する。 (2) グループで合わせる。 4 演奏方法の工夫を考える。 (1) 一次で考えた演奏方法を確認する。 (2) グループごとに担当パートの演奏方法の工夫を考える。 (3) 考えた工夫について発表する。	・ 教師が3つのパートをパートごとに演奏したり、合わせて演奏したりすることで、それぞれの旋律や副旋律、リズム、合奏した際の曲の雰囲気などが分かるようにする。 ② 音階表やリズムカードを使用し、担当するパートの階名やリズムを考えることができるようにする。 ① 担当パートの動画と、楽譜を見比べることで、曲の構造や担当するフレーズ、リズムを知ることができるようにする。 ・ 楽譜だけでなく、個人のタブレット端末に教師が演奏した動画を保存することで、必要に応じて動画を視聴し、参考にして演奏することができるようにする。 ③④ グループごとに部屋を分けて活動する。手順表を示したり、教師が「〇〇までできたね。」「次は何かな。」等の言葉掛けをしたりすることで、進行を確認して、グループで話し合いながら工夫を考えることができるようにする。	・ 見えないものをイメージすることが難しいが、視覚的に示すことで、イメージすることができる。 ・ 自信をもって活動に取り組むことができないことがあるが、見本となる動画を視聴することができるようにしたり、活動のヒントを言葉掛けしたりすることで、主体的に活動に取り組むことができる。
	三	4	5 楽譜や動画を基に練習する。 (1) 前時に考えた工夫を確認する。 (2) 個人で練習する。 (3) グループで合わせる。 (4) 全員で合奏する。 6 合奏する。 (1) 学習活動4で考えた工夫を確認する。 (2) 個人で練習する。 (3) グループで合わせる。 (4) 全員で合奏する。 7 工夫した点や、感想をまとめて発表する。	③④ 拡大楽譜に強弱のチップを貼りつけたり、考えた工夫を書いたりすることで、工夫を意識したり、確認しながら演奏したりすることができるようにする。 ・ ワークシートを基に発表したり、楽器演奏したりすることで、考えた工夫を表現することができるようにする。 ・ 前時に作成した拡大楽譜を確認することで、前時の学習を想起し、考えた工夫を確認することができるようにする。 ・ 教師が演奏した動画（生徒が考えた工夫を再現）を個人のタブレット端末に保存し、それを確認しながら演奏することができるようにする。 ・ 拡大楽譜や前時の練習している時の動画を見返すことで、考えた工夫について確認することができるようにする。 ① 学習活動1で考えた関連する部分と、学習活動4で考えた工夫や、実際に演奏して良かったところを、拡大楽譜を使って発表することができるようにする。	・ 見本となる動画を見比べたり、実際に演奏して聴き比べたりすることで、自分の考えに近いものを選択し、考えを友達に伝えることができる。